

MakCellによるディンプルプレートの培地交換

細胞種：253G1

培養液：AK02N (Ajinomoto), CultureSure Y-27632 (Wako)

培養容器：EZSPHERE (IWAKI) 4810-900SP (6well), 4020-900 (Φ100mm)

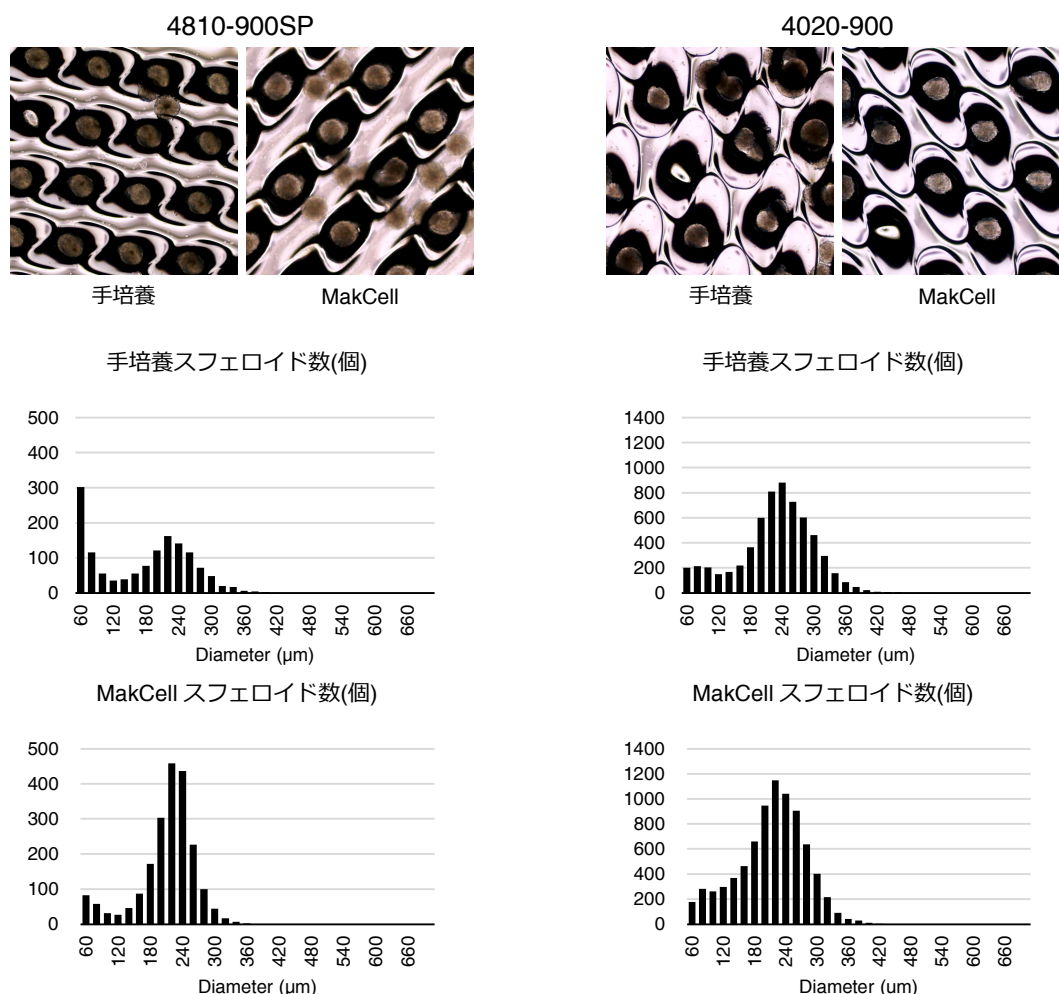
培地量：3.4mL/well (4810-900SP), 17mL (4020-900)

交換培地量：0.9mL×3回 (4810-900SP), 5.6mL×3回 (4020-900)

結果

手培養と比べ、MakCellでの培養において大きな変化は見られない。

小さな粒形が占める割合が減少した。また、4810-900SPでは、最頻値が220μmとなった。



考察

得られた細胞塊は、崩れたような小さなサイズは少なくなり、合一したような大きなサイズも確認できないことから、ディンプル内での崩壊やディンプル間の移動がなくなったことが示唆された。また、得られた細胞塊のサイズ分布から、MakCellのターンテーブル動作および培地交換による影響は見られない。このことは、ディンプルプレートのような培養において、MakCellは有用な自動培養装置であることを示している。

お問い合わせ先

(株)ジェイテックコーポレーション 営業部

〒567-0086

大阪府茨木彩都やまぶき2-5-38

Tel : 072-655-2786 Fax : 072-643-2391